

# 清輝樓

BRAND

暖簾  
を受け継ぐ

宮津の歴史を伝え

まちおこしの一翼を担う

## <プロフィール>

社名 株式会社清輝樓  
住所 京都府宮津市魚屋 937  
電話 0772-22-4123  
代表者 徳田誠一郎 代表取締役  
(十三代目)  
創業 元禄年間 (1690 年代)  
資本金 1000 万円  
売上高 約 1 億円  
従業員 10 人

## 文人墨客の作品を 館内の至る所に展示

日本三景の一つ、天橋立がある宮津市は、江戸時代に城下町として栄えたまちである。天正8(1580)年に城が建てられ、それから約50年かけて環境が整備された。今も往時の面影を随所に見ることができ、与謝蕪村ゆかりの地としても知られている。そこで旅館を営んでいるのが清輝樓だ。

「宮津市には、日本でも珍しい畳敷きのカトリック宮津教会をはじめ、旧三上家住宅や今林家住宅など、古い建物がいろいろと残っています。お寺もたくさんありますし、歴史が好きな人にとっては非常にいいところだと思います」と十三代目の徳田誠一郎社長は話す。

清輝樓の歴史も古く、創業は元禄年間。すでに城下町として栄えていた宮津で旅館業を始めた。その当時はまちの中心部にあったが、明治時代になって、海岸沿いの現在の地に移ったそう。建物は木造3階建てで、3階からは天橋立を望むことができるほどの好立地。建物自体も今月、国の登録有形文化財に指定された。

宿泊客も「文人墨客が多かった」そう。江戸時代には、土佐派、円山派、狩野派といった京都のさ

まざまな絵師たちが訪れ、近代に入ってからには、野口雨情、菊池寛、吉川英治など、多くの作家・詩人が滞在した。

そして、彼らは数多くのふすま絵や、名書、詩歌などを遺していた。館内にはそれらの作品が至る所に展示されている。

「泊まっていたいただいたお客様に、彼らの息吹を感じていただきたいと考え、館内を『小さなちいさな美術館』と称して展示しているのです。主に、江戸時代の作品を2・3階に、明治以降の作品を1階にまとめられています」

また、各部屋のふすまにも絵や書が張っており、ほとんどが江戸時代の作品である。そのほか、トイレには飾り天井、欄間には今では再現不可能と思われる精緻な組子細工が施してある。

「旅館をこのような形にしているのは、所有している財産の自慢では決してなく、宮津の歴史を伝えようという発想からなんです。そして、それがまちおこしの一助になればと考えているのです」

## 先祖を敬う気持ち

誠一郎社長は平成13年、29歳の若さで跡を継いだ。先代の英雄氏が病氣になったため、やむを得な